

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名 函館・江差自動車道（一般国道228号） 茂辺地木古内道路	事業 一般国道 区分	事業 国土交通省 主体 北海道開発局			
起終点 自：北海道北斗市茂辺地 至：北海道上磯郡木古内町字大平	延長 16.0 km				
事業概要 函館江差自動車道は、函館新道に接続する函館インターチェンジから、江差町に至る延長約70kmの一般国道の自動車専用道路であり、北海道縦貫自動車道、函館新道と一体となって道南圏の高速交通ネットワークを形成している。 このうち、茂辺地木古内道路は、茂辺地インターチェンジから木古内インターチェンジに至る延長約16kmの区間であり、高速ネットワークの拡充による道南圏の物流効率化等の支援を目的とした道路である。					
H6年度事業化	H一年度都市計画決定	H10年度用地補償着手	H13年度工事着手		
全体事業費	約647億円	事業進捗率	33%	供用済延長	0.0km
計画交通量	9,800台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.0 (残事業) 1.7	総費用 (残事業)/ (事業全体) 369/602億円 (事業費：333/566億円) (維持管理費：36/36億円)	総便益 (残事業)/ (事業全体) 609/609億円 (走行時間短縮便益：478/478億円) (走行経費減少便益：95/95億円) (交通事故減少便益：35/35億円)	基準年 平成22年	
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=1.85(交通量+10%) B/C=1.45(交通量-10%) 事業費変動：B/C=1.51(事業費+10%) B/C=1.81(事業費-10%) 事業期間変動：B/C=1.52(事業期間+2年) B/C=1.72(事業期間-2年)					
事業の効果等 事業の必要性及び効果 ①日常活動圏中心都市へのアクセス向上 ・周辺都市から函館市へのアクセス向上が期待される。 ②農水産品の流通の利便性向上 ・松前町・福島町のマグロや知内産のニラなどの札幌・東京等への輸送効率化が期待される。 ③函館空港や新幹線駅へのアクセス向上 ・函館空港へのアクセス向上が図られ、空港利用客の利便性向上が期待される。 ・北海道新幹線木古内駅及び(仮称)新函館駅へのアクセス向上が期待される。 ④観光地へのアクセス向上 ・渡島西部及び檜山南部の観光地へのアクセス向上及び観光地を結ぶ高速ネットワークが形成され、観光の振興が期待される。 ⑤高次医療施設へのアクセス向上 ・函館市への高次医療施設への救急搬送時における迅速性・安定性の向上が図られる。 ⑥地域医療機関へのアクセス向上 ・函館市への産科医療機関へアクセス向上が見込まれる。 ⑦日常生活の利便性向上 ・渡島西部地域から医療・買物など日常活動圏中心都市である函館市へのアクセス向上が期待される。 ⑧CO2排出量の削減 ・当該道路の整備により自動車からのCO2排出量が削減される。					
関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等： 函館市など2市16町の首長などで構成される北海道縦貫自動車道建設促進道南地方期成会等より、整備促進の要望を受けている。					

